

02 株式会社モリタアンドカンパニー

熱間バネ製造機のグローバル企業として 100年の社歴。 蓄積技術をベースに周辺分野への進出にも積極的

世界30カ国以上にプラント輸出
オンリーワン技術のトップ企業を堅持

1910年創業のモリタアンドカンパニーは、バネ製造機、なかでも熱間のバネ製造機に長年にわたって特化し、国内のみならず広く世界に知られるグローバル企業である。昨年に100周年を迎えたばかりであるが、工場集積の高い中部地区においてオンリーワン技術を有して技術と伝統を誇るものづくり企業でもある。初期の社名は森田鐵工所。メカプレスの製造からスタートしている。10年前に現社名に変更しており、モリタは他の企業・人々とともに手を携えて企業の運営と発展を図っていくとの意味を込めての命名となった。

バネ製造機の製造に着手したのは昭和初期のこと。当初は手動機であった。その後、自動機の開発・製造を開始した1965年から本格的な取り組みを始めることになる。その10年後の1976年には機械の組み替え時間を大幅に短縮することを可能にし



写真1~2 コイルリングマシンと加工例

た「カセット式熱間コイルリングマシン」の開発が高い評価を得て、その後の同社がバネ製造機分野で大きく飛躍するステップボードとなる。

熱間バネ製造機が守備範囲とするのは、太径・厚板を使用する大型仕様のコイルバネ、板バネ、スタビライザー等だ。コイルバネを例にとると線径が8mm以上のものが製作の範囲、最大径は100mmにもなる。自動車、船舶、車両等が需要先となり、最近ではビルの耐震用につかわれるバネがトピックスとなっている。

バネ製造機は、コイルリングマシン(写真1)、スタビライザー成型装置(写真3)、テーパー圧延機(写真5)など形状ごとに対応機が開発されており、納入は各種のバネ製造機であるバネ成形機、焼き入れ装置、ロードテスト装置などを多軸ロボットなどの搬送装置でつないだライン仕様、また場合によっては加熱炉メーカーとの共同による炉を含めたライン仕様が多くを占める。ロードテスト装置とは規格外のもの測定してライン外に排出する測定試験機であり、ライン長は規模の大きいもので約50mにもなる。顧客ニーズに沿ったライン構築がなされており、長年に

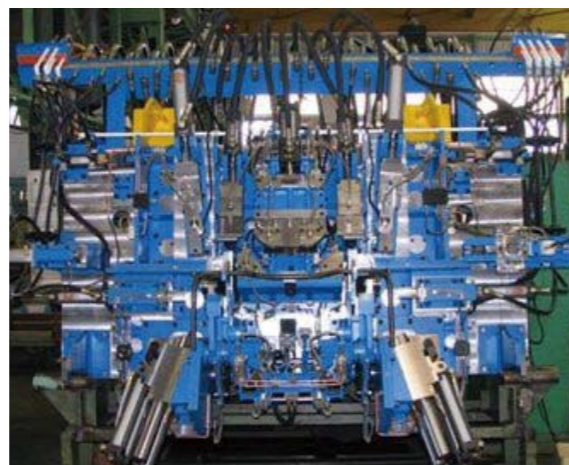


写真3~4 スタビライザー成型装置と加工例

わたって蓄積されたノウハウが国際競争力を高める要因となっている。成形機のサーボ化など時代ニーズに即した技術開発にも怠りはない。新5面加工機、三次元座標測定機などを擁した生産現場における内製率も高く、品質保証も万全だ。

海外企業とのジョイントも積極的に推進
冷間バネ分野にも進出し総合メーカーを目指す

モリタアンドカンパニーの国際化への対応は早く、長い年月にわたっている。初の海外輸出は1974年であり、仕向け地はスペインであった。1977年に東南アジアへ板バネプラントを輸出し、1981年には板バネ・巻バネプラントを欧州に、中国へは1985年に板バネプラントを輸出するという実績を残している。現在までの輸出国の総数は米国やロシアを含め30カ国を超えており、海外において「バネ製造機のMORITA」のブランドは広く認識されている。高い知名度を有していることも素直にうなずくことができる。すでに海外と国内の需要比率は9対1の割合である。

まさに現在のグローバル化を先取りしてきたモリタ



写真5~6 テーパー圧延機と加工例



森田 英嗣 社長

株式会社モリタアンドカンパニー

〒485-0051
愛知県小牧市下小針中島1-200
TEL.0568-77-1241
http://www.morita-c.co.jp

アンドカンパニーであるが、その実績を活かして海外企業とのジョイントも積極的に行う。2008年には台湾の機械メーカーが製造したバネ機械を共同開発、その輸入販売をきっかけに、冷間コイルリングマシン市場への参入を果たしている。現在では同社が開発設計を行い、台湾のメーカーが製作を行うという図式も定着しており、結果としてモリタアンドカンパニーは、熱間、冷間を含めバネ製造機の総合メーカーとしての道を拓くこととなった。

CE規格に準拠しているスウェーデンTROAX社製安全柵について、日本における総代理店契約を結んだものその施策の一環である。ロボットまわりなどの自社ラインに活用するとともに、安全柵個々の販売でライン導入を呼び込むなどシナジー効果を期待しての提携である。

異分野の専用機、搬送・組立機などの
開発製造にも注力

バネ製造機の実績とノウハウを活かして各種専用機や搬送・組立機の開発・販売にも注力し、年商の10~40%まで売上比率を伸ばさせている。そのひとつが電気・電子機器分野への参入である。デジタル記憶メディアのデータ読み取り部品を加工する設備がそのひとつである。そのバックボーンとなったのがバネ製造機で培った位置決め技術であり、バネ製造機で培った技術開発に対する独自の発想であった。モリタアンドカンパニーで開発・製造された装置が電子部品加工分野でも活躍し、精密加工分野への進出を見事に果たしている。

その他分野の専用機対応も積極的に行う。一例をあげると航空機部品を製作するホットサイジングプレスがある。チタン合金などを800℃の高温でプレス加工するもので、同社が培った熱間塑性加工技術をベースにして開発されたものだ。さらに、溶解炉用マニピュレーター、アルミホイール搬送設備、リサイクル材ミキシング設備、パー材用オートベンダーなど同社が受注開発またはOEM製作した設備・機器は多岐にわたる。100年の年月を刻み、次の200周年に向けて着実な歩みを続けていることがわかる。